

まちの話題

The topic of the town



春を呼ぶ風物詩 都井岬で恒例の野焼き

2月3日、国指定の天然記念物「御崎馬」が生息する都井岬で毎年恒例の野焼きが行われました。
この野焼きは、御崎馬の食料となる芝の新芽の発芽を促し、馬につくダニを駆除するため、岬を管理する都井御崎牧組合(迫田幸四郎組合長)が毎年行っています。組合員たちが重油をひたした布をつめた竹の棒で丘陵に火をつけると、火は少しずつ燃え広がり、のんびりと芝を食んでいた御崎馬たちは、煙から逃げるように移動していました。
3月初めには新芽が芽吹き、岬に本格的な春が訪れます。



JR東海硬式野球部が 串間にキャンプリン

JR東海硬式野球部が2月6日から18日まで串間でキャンプリを行い、7日には市役所正面玄関前で歓迎セレモニーがありました。式では野辺市長が「十分に調整して全国制覇を目指してください」と歓迎のあいさつ。串間特産の甘しょや焼酎などを贈呈しました。同野球部の小栗洋一郎監督が「昨年の大会は残念な結果でした。昨年の反省を生かし串間で鍛えたい」と答えました。
串間では3月までに、多くの大学野球部や陸上部がキャンプリを行います。市民の皆さん、選手たちへの応援をよろしくお願いします。



第五次串間市長期 総合計画について答申

2月7日、第五次串間市長期総合計画の基本構想・前期基本計画について串間市総合計画審議会(末海重俊会長・25人)が串間市へ答申。末海会長が「審議会で出された意見、提言などを基に基本構想・基本計画の実現にむけて最大限の努力を希望します」と答申書を手渡しました。
この基本構想・前期基本計画は、昨年12月、原案を串間市が串間市総合計画審議会に諮問。審議会では3つの委員会に分かれ4～5回の議論を重ねてきました。市ではこの答申に沿って計画を修正し、3月の定例市議会に基本構想を提案します。



実のなる木を植えて 環境について学習

2月14日、串間市の環境教育指定校になっている本城中学校(吉野信校長・48人)の全校生徒が、国道448号都井トンネルの本城側入り口横の緑地帯で植樹活動を行いました。
今回植樹したのはヤマモモ、山柿、クチナシの、いずれも実のなる木の苗木50本。生徒たちは環境ボランティアグループ環の会(河野幸子代表)メンバー3人の指導を受けながら、1本ずついねいに植えました。
実のなる木を植えることで、人間と動物の共存が図れることなどを学び、生徒たちは環境に対する意識をさらに高めているようでした。



もしものときに備えて 災害時図上訓練を実施

2月14日、串間市役所で災害時図上訓練を行いました。この訓練は、大規模水害を想定し災害対策本部員がとるべき行動の確認と課題を把握し、串間市の防災体制を強化することを目的に実施したものです。
台風による集中豪雨のため災害対策本部設置、時間雨量100mmを記録し各地で災害が発生する、という想定で訓練を実施。次々と発生する被害状況の把握とその対応、対策本部、各対策部、現地対策本部間の連携などを演習し、確認しました。
もしもの時に備え、市民の皆さんも十分な備えをお願いします。



「コラボしよ！パート2」 協働商談会を開催

商談会方式で行政とNPO法人や企業などが協働を探る協働商談会「コラボしよ！パート2」が2月15日、串間市文化会館で開催されました。この事業は宮崎県生活・協働・男女参画課から市内の若手商工業者でつくる「くしま商道芸人(喜多祥一代表)」が県西・県南地区代表として受託し、開催したものです。
商談会では参加した約30団体がブースを設け、それぞれの活動などを積極的にPRし合い、協働の可能性を探っていました。また、昨年のこの会で商談が成立し協働した団体の事業報告も併せて行われました。



共に学び合い喜び合う 生涯学習社会づくり

2月20日、串間市文化会館で第18回串間市生涯学習推進大会が開催されました。「共に学び合い、喜びあう生涯学習社会づくりを目指して」をテーマに行われたこの大会では、さわやか学級による合唱や、ことぶき学園による踊りなど、日ごろ生涯学習活動に取り組む団体の成果が発表されました。動物ものまねなどで知られる江戸家猫八さんの講演もあり、ものまねを織り交ぜた軽妙な話に、多くの市民が聴き入っていました。また、小ホールでは19日から成果作品展も開催され、水彩画や切り絵などの作品が展示されていました。

